

株主の皆様へ **フジ・メディア・ホールディングス レポート**

**第73期 報告書** 平成25年4月1日から  
平成26年3月31日まで

**INTERVIEW**

太田英昭社長が語る

**次世代への新たな展開で  
一層の業績拡大を図る**

**特集**

**「GLITTER8」  
～キラキラヒカル  
フジテレビ～**



**FUJI MEDIA HOLDINGS, INC.** 証券コード：4676



代表取締役会長  
(Chairman & CEO)

日枝 久

代表取締役社長  
(President & COO)

太田英昭

Contents	 ごあいさつ	1
	 太田英昭社長インタビュー	3
	 連結業績ハイライト	5
	 グループアウトライン	7
	 トピックス	9
	 特集	13
	 CSR通信 Vol.15	15
	 会社概況	16
	 株式情報	17

## メディア・コンテンツ産業のリーディングカンパニーとして

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

(株)フジ・メディア・ホールディングスは認定放送持株会社に移行して7期目を迎えました。放送の公共的使命と社会的責任を常に認識し、放送番組を中心に視聴者・利用者の皆様に信頼され広く支持される上質なソフト・コンテンツの制作・提供を目指してまいりました。さらに、放送分野にとどまらず、生活情報・都市開発などのグループ事業におきましても、メディアとは「人と人を繋げるもの」であると捉え、グループの事業範囲を拡大してまいりました。

さらなる発展のために昨年、(株)フジ・メディア・ホールディングス

と(株)フジテレビジョンの経営体制を分離しました。持株会社と事業会社それぞれの果たすべき役割を明確にし、迅速かつ的確な経営判断が可能な体制で、事業展開を行ってまいります。

さて、当期の業績ですが、放送事業と制作事業が減収となる中、映像音楽事業、生活情報事業、広告事業、都市開発事業などが増収となり、全体では増収となりました。営業利益は、放送事業の減収が影響し減益となりました。

今後とも、グループ内での連動や多様な媒体の相互活用を推進し、ソフト・コンテンツの価値の向上と、そこから生まれる収益の最大化に努め、強靱な収益体質の構築に努めてまいります。

何とぞ、当社グループへの倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年6月



## 総合メディア・グループとして、 次世代への新たな展開で、一層の業績拡大を！

代表取締役社長  
(President & COO)

太田英昭



### 当期の業績の概要をご説明ください。

放送事業におきましては、(株)フジテレビジョンでスポットセールスが減少するなど放送収入が減収となりました。放送以外の催事収入やデジタル収入は増収となったものの売上高全体でも減収となり、減収減益となりました。映像音楽事業では(株)フジパシフィック音楽出版が売上100億円を超え増収増益、(株)ポニーキャニオンは増収ながら減益となりセグメント全体では増収減益となりました。生活情報事業では、7月に合併した

(株)ディノス・セシールの効果もあり、増収増益。広告事業は、(株)クオラスのテレビ広告が好調で増収増益。都市開発事業は、(株)サンケイビルがビル売却により増収となったものの主力であるビル事業の不調によって増収減益となっております。

その結果、連結売上高は前年同期比1.6%増収の6,421億45百万円、営業利益は前年同期比16.2%減益の315億27百万円となりました。



### (株)フジ・メディア・ホールディングスの 今後のビジョンを語ってください。

(株)フジ・メディア・ホールディングスと(株)フジテレビジョンの経営体制を明確に分離して1年が経ちました。新体制のもと、(株)フジ・メディア・ホールディングスは、グループ各社との連携体制をより強固にして、グループの強靱な経営基盤の構築に努めてまいりました。放送収入に依存するだけでなく、グループ企業全体の安定した収益性を高め、他の認定放送持株会社とは違う総合メディア・グループとしての経営を目指しております。

主力の放送事業の中核である(株)フジテレビジョンにつきましては、視聴率回復が最大の急務です。新社長のもと、反転攻勢に向け果敢な番組改編を行っております。32年間続いた「笑っていいとも！」を終了させるなど、タイムテーブルの構造から変えていく改革の真っ最中です。若年層をメインターゲットにした新しいフジテレビの番組編成によって、必ず視聴者の皆様の支持を取り戻し、高い水準の放送収入の確保を目指してまいります。

当期(株)フジテレビジョン以外の子会社の営業利益は過去最高の155億円となり、連結全体の半分近くに達しました。放送を中心としながらも、多岐にわたる事業が互いに支えあう、当社の目指す姿が見えてまいりました。

生活情報事業では、(株)ディノス・セシールの合併により、コスト

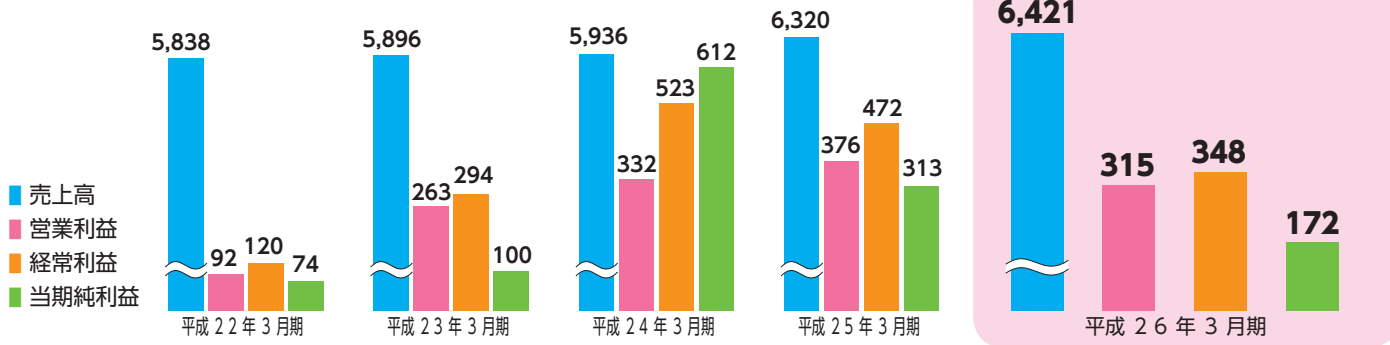
構造の効率化が促進し、さらなる成長を見込んでおります。(株)ポニーキャニオンに代表される映像音楽事業は安定して20億円を超える営業利益を出すようになり、(株)扶桑社も赤字体質を脱却し黒字が定着してきました。その他の各事業も一貫して進めてきた体質強化が確実に効果を上げてきたと考えております。

さらに、新規事業の開拓によるビジネス機会の拡大ですが、(株)フジ・スタートアップ・ベンチャーズ出資による、新規ゲーム事業会社「(株)フジ・グミ・ゲームス」を設立、大型ゲーム・コンテンツ開発へと繋げてまいります。また、海外に向けた新規事業として、エフ・アイ・メディア企画(株)がアジアの放送局・事業会社との業務提携による新分野開拓を進めているところです。

私たちが拠点を置くこのお台場には、2020年東京オリンピックという追い風が吹いています。訪れる外国人観光客もますます増え、東京都が国家戦略特区の地域に指定されるなど、私たちが一大プロジェクトとして取り組んでおります「東京DAIB A・MICE/IR 国際観光戦略特区」事業も新たなフェーズへと移行しております。

さらなる成長分野での展開を加速していくことで、株主の皆様のご期待に応えてまいります。

## 売上高／営業利益／経常利益／当期純利益の推移 (単位: 億円)



### 売上高について

放送事業、制作事業で減収となったが、映像音楽事業、生活情報事業、都市開発事業などが増収となり、売上高全体では増収

- 放送事業は、フジテレビにおいて第4四半期からスポットが持ち直したが、通期の放送収入は減収となり、売上高全体では減収
- 映像音楽事業は、アニメや映画等のDVDがヒットし増収
- 生活情報事業は、カタログ通販が好調に推移し増収
- 都市開発事業は、所有ビルの売却により増収

### 損益について

営業利益をはじめとする各利益とも減益

- 営業利益は、生活情報事業、広告事業で増益となったが、放送事業の減収が響いて全体では減益
- 経常利益、当期純利益は、前年度の関西テレビの負ののれん発生益(68億円)の反動などにより減益

	平成22年3月期	平成23年3月期	平成24年3月期	平成25年3月期	平成26年3月期
<b>業績データ (億円)</b>					
売上高	5,838	5,896	5,936	6,320	6,421
営業利益	92	263	332	376	315
売上高営業利益率(%)	1.6	4.5	5.6	6.0	4.9
経常利益	120	294	523	472	348
当期純利益	74	100	612	313	172
<b>財務データ (億円)</b>					
総資産	7,531	7,237	9,535	9,523	10,116
流動資産	3,446	3,451	3,662	3,416	3,704
固定資産	4,085	3,786	5,873	6,106	6,412
負債	2,890	2,621	4,190	3,841	4,286
流動負債	1,558	1,298	2,029	1,608	1,847
固定負債	1,331	1,323	2,160	2,232	2,439
純資産	4,641	4,616	5,345	5,682	5,830
<b>キャッシュ・フロー (億円)</b>					
営業活動によるキャッシュ・フロー	186	576	392	457	227
投資活動によるキャッシュ・フロー	△308	△1,037	△158	△136	△330
財務活動によるキャッシュ・フロー	253	△333	△53	△433	45
現金及び現金同等物の残高	1,280	481	727	618	572
<b>1株当たりデータ (円)</b>					
1株当たり当期純利益	3,238.69	4,342.98	26,138.30	135.09 ※1	74.62
1株当たり純資産	199,432.99	198,377.85	226,290.92	2,431.77	2,495.75 ※2
1株当たり配当金	1,600.00	1,800.00	3,600.00	4,400.00	40.00

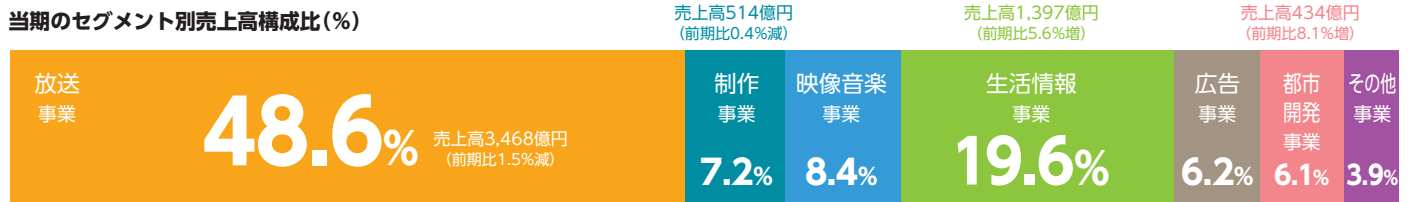
※1 平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し金額を算定しております。

※2 1株当たり配当金は分割後の株式数で算定しております。

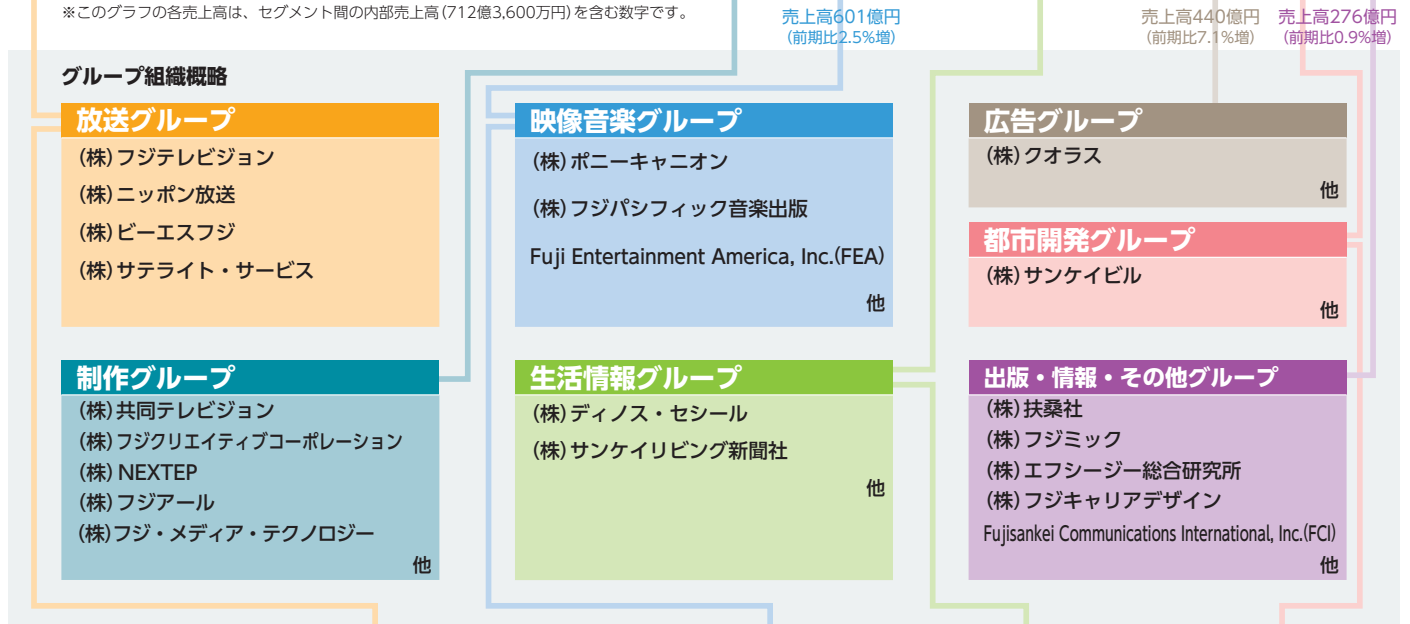
# グループアウトライン

認定放送持株会社(株)フジ・メディア・ホールディングスのグループは、7グループ21社の中核子会社で構成されています。(株)フジ・メディア・ホールディングスは事業面で緊密な関係を有する関連会社をはじめ、フジサンケイグループ各社と事業・文化活動においてさらに連携を強めてまいります。

## 当期のセグメント別売上高構成比(%)



※このグラフの各売上高は、セグメント間の内部売上高(712億3,600万円)を含む数字です。



## 重要な子会社の業績(単位:百万円)

項目	フジテレビジョン (株)フジテレビジョン		ニッポン放送 (株)ニッポン放送		ポニーキャニオン (株)ポニーキャニオン		株式会社 ディノス・セシール (株)ディノス・セシール※		株式会社 サンケイビル (株)サンケイビル	
	前期	当期	前期	当期	前期	当期	前期	当期	前期	当期
売上高	323,581	316,846	19,203	18,360	45,380	46,702	115,330	121,984	33,003	35,743
営業利益	23,449	16,004	100	147	1,661	1,236	1,555	1,624	4,736	5,664
経常利益	23,548	16,036	184	62	1,774	1,450	1,728	1,767	3,601	4,574
当期純利益	13,177	8,599	111	△691	1,014	554	△1,008	1,240	250	2,273

## 関連会社

(株)産業経済新聞社、(株)フジランド、日本映画衛星放送(株) 他

※ 平成25年7月の合併前は、(株)ディノス、(株)セシール、(株)フジ・ダイレクト・マーケティングの合計額となります。

## 番組 「ヘンシン 春のフジテレビ」

今年3月1日に開局55周年を迎えたフジテレビ。視聴者の皆様への感謝と、未来に向かって生まれ変わる思いを込めて「ヘンシン」キャンペーンを展開しました。

まずはバラエティがヘンシン！4月改編の目玉「バイキング」(月～金 11時55分～)。32年間続いた「笑っていいとも！」の後を引き継ぎ、「タメになってオモシロい日本の新しいお昼」をお届けします。

ゴールデンにも新番組が続々と登場。月曜20時「ジャネーノ!?」、日曜19時58分「クイズ30～団結せよ！～」、21時「ワンダフルライフ」と家族で楽しめる番組がラインアップされています。

ドラマもヘンシン！“月9じゃない月9”「極悪がんぼ」。がんぼ



「バイキング」



「続・最後から二番目の恋」

(広島弁でやんちゃ)な女性主人公が裏社会で悪戦苦闘する痛快エンターテインメントです。また木曜22時は、人気作「続・最後から二番目の恋」が帰ってくるなど、春から話題満載のフジテレビに今後ご期待ください！

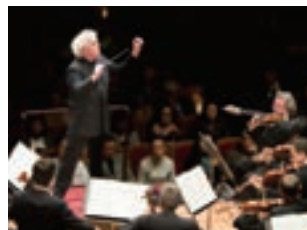
邦画実写興収TOP4を独占！  
海外展開も積極的に！「土竜の唄 潜入捜査官REIJI」  
©2014 N.T.S/F/S/J/T/O「テルマエ・ロマエⅡ」  
©2014「テルマエ・ロマエⅡ」製作委員会

平成25年のフジテレビ映画は、邦画実写の興収収入で「真夏の方程式」を筆頭にTOP4を独占。今年に入っても2月公開の「土竜の唄 潜入捜査官REIJI」が興収21.7億円(5月8日現在)と大ヒットするなど、新しいジャンルの作品群が次々と成果を上げました。また、米・有力アニメスタジオ「イルミネーション」とのアドバイザー契約など海外分野への進出も積極的に行っています。

4月公開作品「テルマエ・ロマエⅡ」は、前作の興収59.8億円を上回るスタートを切りました。

## 多種多様なイベントが大ヒット！

平成25年度は、『M』ザ・イモータル ワールドツアー』『ウォーキング・ウィズ・ダイナソー』などの大型イベントが大ヒット。その他にも、『ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 来日公演』などのクラシック、『フル・モンティ』などのミュージカル、『ザ・ローリング・ストーンズ日本公演』まで多種多様なライブ・イベントを手掛け、いずれも好評でした。そして、東京公演が初のお台場開催となったシルク・ドゥ・ソレイユ『オーヴォ』は、平成26年度も引き続き全国を回ります。

「ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団」  
撮影：三浦興一「オーヴォ」  
Photos : OSA Images Costumes : Liz Vandal  
© 2009 Cirque du Soleil © 2013 Fuji Television

## ニッポン放送 (株)ニッポン放送

### 「開局60周年キャンペーン」スタート

当期は放送収入の増加により、営業増益となりました。

今年7月15日の開局満60年に向けて、昨年10月から「開局60周年キャンペーン」をスタートしました。キャンペーンキャッチは「NEXT STAGE with U」。音楽コンサートや番組公開収録の大型イベント開催、映画製作、新商品開発などに取り組んだほか、新機軸のラジオドラマや話題のパーソナリティを起用した特別番組、若い世代=NEXT STAGEへのメッセージを伝えるレギュラー番組を放送するなど、意欲的な企画を次々と発信しました。

また、新たな取り組みとして、昨年10月1日から木更津送信所の敷地を利用し、太陽光発電事業に参入しました。



キャンペーンキャラクター  
ムッシュマイク&マダムマイク

## 株式会社 ディノス・セシール (株)ディノス・セシール

### ディノス事業中心に好調、合併初年度は増収増益

合併初年度となる当期は、消費税増税前の駆け込み需要や、セシール事業における20代から30代前半の女性向けファッションブランド「イマージュ」の事業譲受などにより、増収増益となりました。

特に、ディノス事業は通期を通じて好調に推移し、中でも「家具じゃなくって、ディノス家具!」をキーワードにしたテレビCM放送や、「大物商品無料引き取りサービス」「お引越し・まとめ買いキャンペーン」を展開したリビング事業、およびファッションブランド「DAMA collection (ダーマ・コレクション)」を中心に高額アイテムの販売が好調だったファッション事業が、業績を牽引しました。



国産材ひのきを使った家具  
(ディノス)

## BSフジ (株)ビーエスフジ

### 「プライムニュース」5周年!新たなステージへ

タイム収入は通期で好調に推移、スポット収入は上期に前期を下回りましたが下期に回復し、増収増益となりました。

看板番組「プライムニュース」は、今年4月に放送開始5周年を迎えました。これまで金曜日を担当していたフジテレビの島田彩夏アナウンサーを月~木のキャスターに、金曜日はフジテレビ「スーパーニュース」での実績を活かして石本沙織アナウンサーが担当、反町理キャスターを中心にとする新たな布陣で6年目のスタートを切りました。「日本のトップタレントに選ばれている」ニュース番組として、これからも日本の現在と未来について熱い議論を繰り広げてまいります。



BSフジLIVE プライムニュース

## 株式会社 サンケイビル (株)サンケイビル

### マンション販売好調、投資家向け賃貸マンションの開発推進

オフィスビルの売却により、増収増益となりました。

「ルフォン白金台 ザ・タワーレジデンス」をはじめ、分譲マンションの販売が好調です。また、新たに郊外エリアで展開するファミリー向け分譲マンションのブランド「ルフォンソレイユ」を発表しました。第一弾の「ルフォンソレイユ小平小川町」は豊かな自然に囲まれ、商業施設や教育施設も至近な立地です。子育て世代が快適で安心・安全な暮らしを送るための住まいをご提供してまいります。

「投資家向け賃貸マンション」の開発も積極的に推進。これまで東京都内に供給してきましたが、この春より大阪エリアへも拡大を始めています。



ルフォン白金台  
ザ・タワーレジデンス

## PONY CANYON (株)ポニーキャニオン

### 「進撃の巨人」「Free!」がビデオでも大ヒット!

映画・アニメなどの映像部門が好調で増収の一方、費用増で減益となりました。

音楽事業ではSexy Zoneの成長がめざましく、映画事業では「ONE PIECE FILM Z」「踊る大捜査線 THE FINAL」「真夏の方程式」「謎解きはディナーのあとで」がヒット。

映像事業では「西部警察」のブルーレイBOXや韓流ドラマ「馬医」が牽引しました。社会現象とまで言われたアニメ「進撃の巨人」がビデオで大ヒットし、Linked Horizonの主題歌をはじめ関連商品も好調。また、男子水泳部を描いたアニメ「Free!」が大ヒットしました。

新規事業としてライトノベルズなど書籍出版も実現しました。



「進撃の巨人」  
ブルーレイディスク

## 株式会社 扶桑社 (株)扶桑社

### 4期連続黒字、増収増益達成!

雑誌売上が増加しコスト管理にも成功したことで、4期連続の黒字に加え増収増益となりました。

定期雑誌「週刊SPA!」は販売売上が増加し前期比で大きく収支が改善、インターナショナルモード誌「Numéro TOKYO」は広告売上が好調でした。

また、フジテレビの番組関連ムック「テラスハウスインサイド」や料理ブログ専門ポータルサイトの「レシピブログマガジン」、ソチ五輪男子フィギュアスケート金メダリスト羽生結弦さんの書籍「蒼い炎」、新書「嘘だらけの日韓近現代史」などがヒットしました。



テラスハウスインサイド

光と音に包まれた新ランドマーク！ <sup>グリッターエイト</sup>「GLITTER 8」～キラキラヒカルフジテレビ～

「GLITTER8」誕生の瞬間

昨年12月13日午後5時22分、点灯スイッチが押された瞬間、フジテレビ本社屋は「踊る大捜査線」のテーマ曲と連動して、まばゆいばかりの光を放ち始めました。幅200m高さ125m、24階建てのビル壁面をいっぱいに使ったその規模の大きさと、1,678万色におよぶ鮮やかな色彩表現に目を奪われた会場は、どよめきに包まれました。727枚の窓に設置されたLED照明が様々なショーを生み出す、まったく新しい形のイルミネーション「GLITTER8～キラキラヒカルフジテレビ～」が誕生しました。

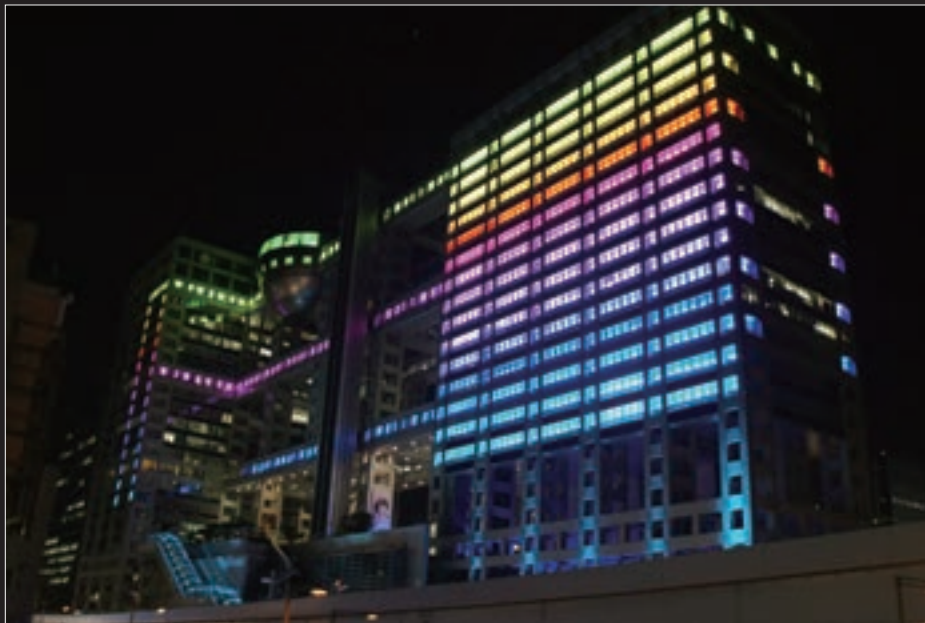
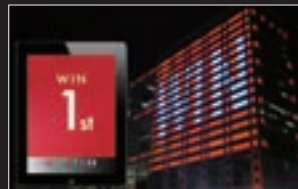
「GLITTER8」の舞台裏

フジテレビは業界のリーダーとして、番組やイベントでは他局に先駆けて様々な取り組みをしてきましたが、開局55周年を記念しての次なるチャレンジは、社屋そのもので楽しんでもらうことでした。お台場を訪れた人を驚かせ、楽しませ、そして感動させたい…。

午後5時、終業時間が近くなると社内アナウンスでイルミネーションへの協力が呼びかけられ、窓際にいる社員は一齐にブラインドを閉めます。社員一人一人の力によって、このイルミネーションは成り立っているのです。

「GLITTER8」今後の展開

「サザエさん」「東京ラブストーリー」「なるほど！ザ・ワールド」…。数々のフジテレビ人気番組のテーマ曲と連動したショーは、すっかりおなじみになりました。そして今春からこのイルミネーションを使って二つのゲームが始まったのです。社屋の壁面を巨大スクリーンに見立て、自分のタッチした通りにイルミネーションが輝き、点滅し、消えていく。一様に驚きの声と歓声が上がります。さて、「GLITTER8」の次なる遊び方は…？







メディア企業としての被災地支援を継続！  
東北に“元気”と“笑顔”を発信し続けて、3年目。  
**みちのく合衆国in岩手**

東北の皆様へ直接笑顔をお届け、被災地に明るい光をともすことができればと考え、一昨年から始まった「みちのく合衆国」。今年は3月14日(金)、15日(土)の両日、岩手県大船渡市で開催しました。フジテレビが誇る人気番組「THE MANZAI スペシャルステージ」で会場は爆笑の渦につつまれ、2日目は夏の合衆国イメージキャラクター「AKB48 スペシャルライブ」を実施、会場の子どもたちと一緒に踊ったり、大いに盛り上がりました。2日間で計3,500人のお客様にお越しいただき、この模様は東北の被災3県とフジテレビで放送されました。



THE MANZAI スペシャルステージ



AKB48 スペシャルライブ

## グループ各社の強みを生かして被災地の復興を支援

東日本大震災発生直後にフジテレビが中心となって立ち上げた被災地復興支援プロジェクトでは、オリジナルの食育プログラムや朗読会などのイベントを被災3県で行ってきました。3年間で139カ所の保育園や幼稚園、障がい者施設などを訪れ、計14,000人以上の方々へ笑顔をお届けしました(3月末現在)。グループ内で連携して行う活動も増えており、これからの被災地のニーズに合わせ、子どもからお年寄りまで楽しんでいただけるイベント等で、被災地復興のお手伝いを継続していきます。



3月ディノス・セシール+フジテレビのコラボ企画で宮城県石巻市の子どもたちにお花の苗をプレゼント

## 会社概況

### 会社概要 (平成26年3月31日現在)

会社名	株式会社フジ・メディア・ホールディングス (FUJI MEDIA HOLDINGS, INC.)
事業内容	認定放送持株会社
設立	昭和32(1957)年11月18日
決算期	3月31日
資本金	1,462億35万円
連結従業員数	6,234名
本社	〒137-8088 東京都港区台場二丁目4番8号

### 役員 (平成26年6月27日現在)

代表取締役会長	日枝 久	取締役	松岡 功
取締役副会長	豊田 皓	取締役	木 明
代表取締役社長	太田 英昭	取締役	三 大
取締役副社長	嘉納 修	取締役	石 黒
常務取締役	和賀井 隆	取締役	横 田
常務取締役	金 光 修	取締役	黒 崎
取締役	亀山 千広	取締役	寺 原
取締役	遠藤 龍之介	常勤監査役	清 原
取締役	大 亮	常勤監査役	尾 上
取締役	稲 甲 二	監査役	瀨 上
		監査役	田 木
		監査役	茂 友三郎
		監査役	南 直 哉
		監査役	奥 島 孝 康

## I N F O R M A T I O N

### 株主優待のご紹介



株主の皆様の日頃のご支援に感謝して、毎年9月30日現在の株主名簿において100株以上保有する株主の皆様を対象に、当社オリジナル手帳を贈呈しております。この手帳は、12月上旬に発送いたします。

### ホームページのご案内



### ホームページでも情報公開中!

最新のIR情報をはじめ、CSR活動への取り組みなど、当社の様々な情報をご覧ください。

フジ・メディア・ホールディングス



本レポート裏表紙の「はちたま」見学パスポートもご利用ください!

## 株式の状況

発行済株式の総数

236,429,800株

単元株式数

100株

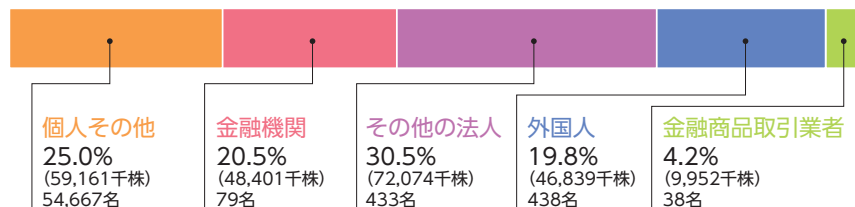
株主数

55,655名

(注1) 発行済株式の総数には自己株式及び放送法に基づき名義書換を拒否した株式(外国人持株調整株式)が含まれております。

(注2) 平成25年10月1日付で普通株式1株を100株に分割しました。

## 所有者別株式分布状況



(注1) 「個人その他」には、自己株式2,235千株及び放送法に基づき名義書換を拒否した株式(外国人持株調整株式)27,789千株が含まれております。

(注2) 放送法で定める外国人等の有する議決権数の当社議決権総数に占める割合は19.99%です。

## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで	
基準日	期末配当：3月31日 (中間配当を行う場合は9月30日)	
定時株主総会	6月下旬	
公告の方法	産業経済新聞に掲載	
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社	
各種お手続き住所変更、配当金受領方法の指定等	証券会社に口座をお持ちの場合	証券会社に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
	お取引の証券会社	みずほ信託銀行 本・支店 みずほ証券 本・支店・営業所
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 郵送物等の発送・返戻に関するご照会</li> <li>● 株式事務に関する一般的なお問い合わせ</li> <li>● 支払明細の発行に関するお手続き</li> </ul>	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 <b>0120-288-324</b> (土・日・祝日を除く9:00~17:00)	
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行及びみずほ銀行 本・支店 (みずほ証券では取次のみ)	

## 大株主

株主名	持株数(千株)	比率 (%)
東宝株式会社	18,572	7.86
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	12,169	5.15
株式会社文化放送	7,792	3.30
株式会社NTTドコモ	7,700	3.26
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	7,333	3.10
関西テレビ放送株式会社	6,146	2.60
ステート ストリート バンク アンド トラストカンパニー 505223	5,575	2.36
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(退職給付信託口・株式会社電通口)	4,650	1.97
株式会社ヤクルト本社	3,969	1.68
みずほ証券株式会社	3,288	1.39

## 外国人等の株主名簿への記載・記録の制限等

当社では、放送法の規定に基づき定款を定め、外国人等の議決権が20%以上となる分の株式は、名義書換を拒否しております。

## 確定申告の添付書類について

配当金領収証・口座振込にてお受取りの株主様	同封の「配当金計算書」が添付書類となります。
株式数比例配分方式をご利用の株主様	お取引の証券会社にお問い合わせください。

詳細は当社ホームページをご覧ください

フジ・メディア・ホールディングス 株式手続

